

『理想の平和』の実現に向けて  
「平和」とは、一体何を指す言葉なのでし  
よう。辞書を引いてみれば、「戦争や紛争の  
ない世の中の状態のこと」という風に出てき  
ます。それでは、戦争や紛争さえ無ければ、  
「平和が実現した」といえるのでしょうか。  
僕は最近、ニュースで「最悪な平和とまだ  
マシな戦争」という話を聞きました。どうい  
うものかというところ、ある国の話です。その国  
の経済状況は壊滅的で年間十万人もの餓死者  
を出しています。しかし戦争や紛争は起きて  
いません。これが「最悪な平和」です。です  
が、隣国に戦争を仕掛け、領土を奪い取るこ  
とができれば、食料の大量生産が可能になり  
十万人にも及んだ餓死者を救うことが出来ま  
す。無論、戦争には決して少なくない犠牲も  
伴います。この戦争の場合、三万人の軍人が  
命を落とすことになりました。戦争はやっては  
いけないことだと分かっています。戦争はやっては  
いるものの、単

純な数の比較では、戦争をした方が多くの命を救える。これが「まだマシな戦争」です。あなたがこの国の王であった時、どちらを選択しますか。という話でした。この話を聞いたとき、僕は「そんな理不尽な話はないだろう」と感じました。正直、この国の道が本当にこの二択なら、どちらを選んでも待っているのは最悪の結末だと思いません。確かに、この国は戦争をしていません。理論上「平和な国」といえます。しかし、年間十万人の人が飢えて死んでいるのを見て、誰が「平和な国だ」という感想を抱くでしょうか。この話に出てきた国には戦争がないだけ、『最悪な平和』ではなく、誰もが幸せに生きていけるような『理想の平和』が必要なのです。では、『理想の平和』とは、具体的にどのようなものなのでしょう。おそらく、「戦争などの具体的な事象を用いて表すのは難しい」と思います。それぞれの国や地域、人によつ

て事情が全く違ったりするためです。しかし  
それぞれが『理想の平和』を目指するとき、一  
つ共通していえることは、「互いが互いを想  
いやること」なのではないかと思えます。例  
を挙げてみれば、さっきの国の話でも、毎年  
十万人が飢え死にしているのであれば、外国  
に支援を求めるときも選択肢の一つだと思  
います。それに応じて外国が支援を行い、餓死  
者が救われたのなら、それこそまさに、互  
いを想いやり合って創り上げた『理想の平和』  
なのではないでしょうか。  
正直、僕は今のこの世の中が平和だとは到  
底思えません。今この瞬間も多くの人が戦争  
によって命を落としています。では、そんな  
世の中が『理想の平和』へと向かっていくた  
めに、僕たちができることは何でしょう。無  
論、僕は未成年の子どもなので、「総理大臣  
になつて世界を変える！」といった具合の馬  
鹿げた目標は掲げられません。ですが、でき  
ることは何もないのでか。と言われればそんな

ことにはありません。僕らにできることは、今の世の中の平和に対しての現状、原爆などの過去の悲劇、戦争がいかに残酷であったかなど。「知る」ことと、「それらを忘れずに」覚えておく「こと」です。本来の意味とは異なりませんが、この文章中ではこのことを『知覚』と呼ぶこととします。この『知覚』こそ、『理想の平和』への本当の第一歩なのです。誰かに任せるのではなく、自分達一人一人が当事者であるという意識をもち、真剣に向き合っていくべき、きっと世界は良い方向に進んでいきます。互いが互いを思いやれる。そんな平和で穏やかな世界のために、僕たちは他にどんなことができるでしょうか。